童話

大きな贈りもの

武田雪夫

あしたは、坊やのお誕生日です。

もう坊やは、六つになりましたから、今度のお誕生日には、ことも坊やには持てないやうな、大きな大きな贈りものを、お父さんが下さるお約束です。

何を下さるのでせう。坊やは、お父さまのお歸りが、待遠しくてたまりません。ところが、いつも早くお歸りになるお父さんが、どうしてか、今日はなか〳〵です。

そのうちに暗くなつて、坊やが、待ちきれなくて、おねんねしてしまつた頃、お父さんは、やつとお歸りになりました。

さあ、お父さんは、坊やに、どんな贈りものを買つて來て下さつたでせう。ところが、おや〳〵お父さんは、小さな紙の包を一つ持つてゐるだけです。坊やの贈りものは、どうしたのでせう。忘れて來たのでせうか。

朝になつて、坊やは目をさましました。さあ、今日は坊やのお誕生日です。坊やは、にこ〳〵して起きました。

おや、誰か、お庭で何かしてゐます。坊やは急いで、お廊下へ飛出して行きました。お父さんが、シャツ一枚になつて、お庭の隅に、大きな穴を掘つてゐます。

「お父さん、何を作るの。金魚の池を作るの」。

坊やが、ききました。

「ちがふよ。もつと〳〵よいものだよ」。

お父さんは、汗をふきながら答へました。

そのうちにお父さんは、穴を掘つてしまひました。

そこへ、どこかの小父さんが、車で砂を運んで來ました。

「こちらですか」。

「ええ、その穴の中に入れて下さい」。

その時、お母さんが、昨夜の紙の包を下さいました。坊やが開けて見ると、中から赤いシャベルや青いバケツが出て來ました。

お父さんの掘つた穴の中に、小父さんが砂を上手に入れました。平に均した砂は、ほんとに柔かさうです。上等のお砂場が出來ました。

坊やは、うれしくなりました。

——お砂場の贈りもの。まあ、ほんとに大きな贈りものです。

今に、仲よしのお友達も遊びに來るでせう。おしまひ。

今度本協會にて「系統的保育案の實際」（廣告參照）を發行いたします。尙附屬幼稚園の編纂になりましたもので、ぜひ皆樣におすゝめ致し度うございます。御購入の方は協會へお申し越し下さいませ。

雜誌「愛育」が六月にうまれました。恩賜財團愛育會の發行でございます。

本誌上からも御吹聽致します。